

# 日本の野球場における変化と特徴について

平井 翔太 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 黒須 朱莉

キーワード：野球場，日本，球場づくり

## 1. 緒言

野球は米国発祥のスポーツであるが、各々の国の野球には多くの違いがある。その違いの中には球場におけるものがあり、近年では選手や観客のことを考えた球場に変化している。脇坂（1989）は、日米の野球場を比較し、日本の球場は比較的狭いことを明らかにした。沢柳（1990）（1999）の文献は、研究論文ではないが日本の野球場に関するデータがまとめられている。しかし、1999年以降に新設や改修された球場については明らかにされていない。そこで本研究は、1999年以前以後を対象とし、日本の球場の特徴とその変化を明らかにすることを目的とした。そして、今後日本がどのような球場づくりをしていけばよいのか、球場づくりにおける課題を考察した。

## 2. 研究方法

管理運営元、建設の目的／理由・建設年／改修年、フェンスまでの距離、グラウンドの表面、グラウンドの周辺施設、グラウンド内の施設、グラウンドのバリアフリー化の以上の7つの観点に基づいて文献資料を収集した。その中から、7項目中6項目以上の情報が記載されていた46球場を対象にし、日本の球場の特徴とその変化をまとめた。

## 3. 結果と考察

日本の球場における管理運営元では、プロ野球の本拠地は球団が所有しており、他

には市、県、教育委員会も球場の運営管理を行っていた。改修年では、1980年代までに作られた球場はすべて改修されていた。改修の内容はプロ野球での利用を目的とした球場、女子プロリーグの設立を受けて女性に優しい球場、そして水はけの良い球場へ改修されていた。フェンスまでの距離は野球規則に定められている距離を満たしていたのは24球場だけであった。グラウンドの表面は天然芝から人工芝に張替えを行う球場が多く見られた。グラウンドの周辺施設は運動公園になっている球場が多く、プロ野球の本拠地となっている球場は、レジャー施設やショッピングセンターが併設されており、米国のボールパーク化が進んでいた。グラウンド内の施設は室内練習場や男女別のトイレなどが完備されていない。バリアフリーは、1989年以降の球場にはすべて導入されていたが、エレベーターは導入されていない球場が見られた。

以上の特徴と変化から、今後の球場にはグラウンドの野球規則を満たし、性別や障害の有無を問わず、選手にとっては野球をプレーしやすい環境、観客にとっては足を運びやすく、観戦しやすい環境を整えた球場づくりを進めていくことが望まれる。

## 引用・参考文献

沢柳正義（1999）最新野球場大辞典，大空社